

2019 年度 夏期ドイツ語研修報告書

健康福祉学部 作業療法学科 1 年 久保木七海

✓はじめに

留学を決意するときに、それが短期でも長期にしても自分自身の語学力を気にして一歩踏み出せ無くなってしまう人が多いと思う。しかし、自分が思っているよりも意外とできているし、どこに行っても数日で耳が慣れ始めて聞こえやすくなる。そして、日常生活でその言語を使える事を知り自信にもなる。その反面で、ネイティブの会話にどの程度入っていけるかは人によるし、理解ができなくて悔しい思いをすることもあるが、それが学習の意欲に変わることは間違いないだろう。

今回私は、この4月からドイツ語を学び初め学習期間3ヶ月ほどでウィーンに飛んだ。学科の関係で来年以降にドイツ語を履修することが厳しいため、いっそのこと現地に行ってしまうと思った。不安は多かったがもちろん行って良かったと思うことしかない。

✓ウィーンでの学校

まず初めにクラス分けのテストを受けた。口答試験があり、それにより判断されたレベルの筆記試験を受けた。私のクラスは一番初心者のクラスだった。クラスメイトは、何人かの日本人とアメリカ、イタリア、モロッコ、ペルシャ、カナダからの人々だった。基本的にドイツ語を学ぶのが初めてという人が多いクラスであった。授業は先生と黒板を前にして半円形に座席を取り、いつでもいろんな人と話せる形であり、先生が一度説明をし、すぐにペアワークやゲームを通して使う、話してみるという形であった。

日本での座学とは異なり、参加型であったので、覚えると言うよりも身につくという感覚がとても大きかった。学んだ内容は首都大の授業のドイツ語Iで十分な内容だったが、それに加え日常で使える多くのフレーズを学び、すぐに使える環境にいたため、今もすぐにそのフレーズが出てくるほど覚えている。

私は、友達と無料の singing class に登録し参加した。ドイツ語の現地でよく知られた曲を歌った。話すよりもドイツ語のでるスピードが速いので難しかったがとても楽しかった。最終日にはベートーヴェンの第9を歌い音楽の都ウィーンを感じた。

私が触れあったウィーンの人々や先生、生徒などはみんなとても優しいし、わからないことは丁寧に教えてくれるし、冗談も言い合えるくらい仲良くなれて楽しい時間を過ごせた。



✓自由時間の過ごし方

ドイツ語の授業は平日の 8:15-13:00 であったため、平日の午後と土日は自由に使える時間であった。

初めは日用品などの購入のためスーパーを何店かまわり、自分に合いそうなスーパーを探した。寮での生活に慣れて授業の感じにも慣れた 3 日 4 日目くらいに観光を始めた。

ウィーンはとにかく美術館博物館が多く、ほぼ毎日何らかを見に行っていた気持ちだ。かの有名なナポレオンの絵やデメルスの塔、接吻など一度は見ておいた方が絵が多くあった。

そして、あの有名なオペラ座にも行って来た。その日はバレエの「SILVIA」が演目だったのでオペラではなかったが、とても素晴らしかった。立ち見で公演一時間前くらいから並び 10€ であったが舞台を前に正面の真後ろだったため最高の席だった。次はぜひオペラを見に行きたい。



また、ウィーンを一望しようと、ドナウタワーに上った。とても晴れている日でウィーンが一望できた。少し面白いのが、旧市街はとても古い町並みなのだが、ドナウ川を挟んで反対側は現代を感じる高層ビルなどの建物が多くあり、現代と昔を感じることができる。



最後にウィーンの市、Nasch Markt を紹介する。平日と土曜にやっている市場でありウィーンの人々の台所だ。土曜にはアンティーク市もやっているため土曜に行った。たくさんの食材が店に

並び、カフェやレストランではウィーンの料理が食べられる。民族衣装なども売っていてとてもウィーンを感じられる場所だった。



✓おわりに

ウィーンは人も環境もとても良い場所だった。上手く話せない言語の環境に不安を抱えて飛び込んだがたくさんの人の力を借りて、充実した時間を過ごすことができた。この経験を生かしてドイツ語の学習をますます頑張りたい。

不安があるからと行って躊躇せず、行くか悩んでいる人は、一歩踏み出して留学に参加して最高の経験をしてほしい。